

令和3年度

進路のてびき 1

令和3年6月

渋谷区立上原中学校

3 年 組 番	氏 名	
---------	--------	--

I. 進路について考えよう

1. 進路は自分で決める

3年生になって誰もが考えなくてはならないことは、卒業後の進路です。小学校から中学校にかけての9年間の義務教育が終わると、社会人として働くこともできるし、高等学校や専修学校などの上級学校に進んで、より高度な内容や専門的な内容について学び続けることもできます。また、日本を出て海外の学校で学ぶ人もいます。

中学卒業後の進路を考える上で大切なことは、自分はどのような生き方をしたいか、そのために何を学びたいか、今はどんな準備をしておけばよいか自分自身でよく考えることです。

現代は仕事の種類も、生き方も、学び方も多様に変化しています。これまでに無かったような新しい仕事が見られることもあれば、歴史のある仕事が消えてゆくこともあります。長い人生の中では、職業や生き方を変えながら生きていかねばならないこともあります。中学3年生の時点で、将来の自分の姿を思い描くことは、難しくなっていますが、できる範囲で先のことを考えながら、明日の生き方を決めていくことの大切さは変わりません。

進路を考えていく過程では、保護者の考えを聞くことや、周りの人々のアドバイスを参考にすることは大変有意義です。しかし、自分の考えもなくむやみに人の考えに流されては、悔いが残ります。

現に、年間の高等学校中途退学者は、約4万人以上に上ります。自分で納得し、満足のいく人生を歩もうと思うなら、進路の選択は、成り行きまかせや人まかせにせず、周囲の意見をよく聞いた上で、最後は自分自身で決めることが何より大切です。

2. 進路選択にあたって知っておくべきこと

中学校卒業後の進学先や就職先を選択するときに考慮しなくてはならない要件がいくつかあるので、ここで確認しておきます。

(1) 自分の適性を知り、人間的・社会的な力を身に付ける

自分は将来何をやりたいか、どんな生き方をしたいか、自分が興味をもっていることは何か、自分は何に向いているか、というようなことを「適性」といいます。自分の適性に合った進路を選択することがとても大切なので、これを機会によく考えてみましょう。

また、最近の入試では学力以外の力、例えば、思考力、判断力、表現力等、「課題を解決するための力」を見ようとしています。さらに、自分の考えを的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を評価しようとする傾向があります。

その代表的な入試方法が、都立高校推薦入試の「集団討論」です。学力とはまた別の、「社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する」と、東京都教育委員会は述べています。面接や討論となれば、必要な力は一朝一夕には身に付きません。自分の適性や長所を考えながら、校内外のさまざまな活動の中で人間的な力や社会的な力を伸ばしていく必要があります。

私立高校においても、実際の入試前からさまざまな方法で人物評価をしようとしています。一部の高校では入学への意欲をみるために、学校説明会や見学会、体験入学などへの参加実績を評価したり、面接重視の入試を実施したりしています。

つまり、都立・私立を問わず、最近の入試では高校入学後、さらには高校卒業後の生徒の状況まで視野に入れていると考えられます。「高校に入ってから何をやりたいか」「高校を卒業したらどのような道に進みたいか」ということを、今からしっかりと考えておいた方がよいでしょう。

(2) 自分の学力を知る

本来の「学力」には、その教科についての知識量や理解力、思考力、技能から興味・関心・態度まで広い意味がありますが、ここでいう「学力」とは、上級学校の入学試験や職場の採用試験で必要とされる学力という意味で、もう少し具体的にいうと、試験での得点力のことです。例えば、都立高校の場合、一般入試（正式には「学力検査に基づく選抜」という）で出題される学力検査（いわゆる入試問題のこと）で、どれくらいの得点が取れそうか、どれくらいの力が発揮できそうかという目安を、ここでは「学力」と呼ぶことにします。

学力検査に得点として表れる「学力」は、その人の真の学ぶ力を表すものではありませんし、人としての立派さや可能性や生きる力を表すものでもありません。試験を受けた時点における得点力に過ぎません。しかし、入学の選抜試験では、この得点力が重視される傾向があります。

現実問題として、高校に定員があり、選抜制度がある以上、どれほど自分に向けていて行きたい学校があったとしても、選抜される（合格させていただく）だけの学力がなければ入学はできません。そこで、自分の「学力」（＝得点力）を知っておく必要があります。

※自分の得点力を知るには、6月と10月に実施を予定している5教科の復習確認テストの結果を参考にしたり、過去に出題された入試問題をやってみたり、会場模擬試験に参加したりすることが有益です。また、広い範囲から出題されている過去の入試問題や模擬試験をやってみると、自分の勉強が足りないところも分かり、出題傾向もつかめるので、対策が立てやすく、効果的に学習できます。

(3) 家庭の状況を知る

義務教育を終えるということは、社会に出るための第一歩を踏み出したということでもあります。そういう意味でも家庭の状況を考え、保護者の意見を聞くことは、重要なことです。自分自身の希望や目標に加え、保護者の意向や家庭の経済状況なども考慮し、互いに理解し、納得した進路選択となるよう話し合うことが重要です。

3. これからの生活で心がけたいこと

(1) 中学生としての生活を大切にす

高校へ入学するために中学校生活があるわけではありません。中学時代は、中学生として、今を精一杯に生きて、卒業までの限られた時間を大切にしてください。

- ・勉強だけでなく、行事や部活動、委員会・係活動など全てのことに最善を尽くしましょう。
- ・正しい言葉遣いや礼儀作法、服装などを日常生活の中で身に付けましょう。
- ・毎日、規則正しい生活をして、欠席、遅刻、早退はしないように努力しましょう。
- ・周囲の人に対する思いやりと感謝の気持ちをもちましょう。

(2) 進路に関する情報を積極的に収集する

自ら進んで情報を集め、必要な対策を立てましょう。

・どんな進路先があるか調べる

進路情報誌や学校案内などの本やパンフレットで調べるだけでなく、インターネットで調べることもできます。進路のコーナーも利用してください。関心のある高校の文化祭や学校説明会、授業公開や体験授業の情報などは早めにつかみ、実際に学校訪問をしてみることがとても大切です。「百聞は一見にしかず」です。自分で感じ取ってくるのが大切です。いろいろ見てくると志願理由書も書きやすくなりますし、勉強にも一段と気持ちが入ります。オンライン説明会を実施している学校も多くあります。

・ **どんな選抜制度になっているか調べる**

都立高校等の入試のしくみは、6月中旬以降に「令和4年度東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」という冊子が配付され、明らかになります。それ以外にも、東京都教育委員会のホームページや各高校のホームページなどで情報を得ることができます。また、9月になると、ほとんどの私立高校で令和4年度の募集要項が発表になります。「令和4年度東京都立高等学校等募集案内」の冊子は、11月初旬に配布されます。

・ **分からないことや知りたいこと、悩み事などは、先生に相談する。**

担任の先生もみなさんの考えや思いを知れば知るほど、より適切な助言ができます。決められた面談日以外でも、都合のよい日時を聞いて、相談に来てください。

(3) 計画的に学習する

一般的に入学試験では、中学3年間に学んだ全範囲からまんべんなく出題されますから、年間を通して計画的に学習を進めることが大切です。

3年生で学ぶ内容については、これまでと同様に、日常の授業（ノート、提出物、実技や作品、学習に取り組む姿勢など）を大切に、定期考査や小テスト、単元ごとのテストなどで力を発揮すれば、それがそのまま調査書の成績に反映され、推薦入試でも一般入試でも入学選抜におけるプラスのポイントになります。

都立高校の「学力検査に基づく選抜」や私立高校の「一般入試」では、やはり得点力が重視されるので、基礎を補充し、応用力を付けて得点力を伸ばすような取り組みが必要です。ここでは、得点力を付けるための一般的な学習計画の例を紹介します。

学期ごとの定期考査（中間テストや期末テスト）では、その期間に学んだ特定の範囲から出題されるため、また基礎基本にウェイトをおいた出題が多いため、人によっては、定期考査の得点力と入学試験の得点力が一致しないこともあります。

基礎学力の確立（4月～8月）

基礎の復習（主に中学1・2年の復習）と不得意教科（分野）の補充は、4月～8月に主として家庭学習で行います。6月に実施される第1回復習確認テストは、広い範囲に渡って基本事項が出題されますので、自分の弱点が見付かったら、夏休み中に補いましょう。

実力養成（9月～12月）

9月～12月は、テストで見付かった自分の弱い部分をもう一度復習したり、入試レベルの問題を自分でやってみて、応用力をつけたり、弱点を補充したり、過去の入試問題で志望校の出題傾向を研究します。会場模擬試験を受けてみるのも役に立ちます。

総仕上げ（1月～2月）

1月から2月の入試本番にかけては、生活のパターンを朝型に切り替え、問題演習を中心に総復習をします。恐れず侮らず、健康に注意して最善を尽くしましょう。

4. 家庭の理解と協力

学年のお知らせや、進路関係の連絡や情報については、主に学年通信に掲載いたしますので、保護者の皆様も毎号必ず目を通してください。上級学校の内容や選抜方法、学校説明会や見学会、奨学金制度など、多くの大切な情報が次々にまいります。学年通信や学校からの配付物は、お見逃しがないようお願いいたします。また、進路選択にあたって、生徒は悩んだり、不安になることがあります。保護者として毅然とした態度も求められます。ご家庭では、お子さんを精神的に支えていただくとともに、落ち着いた生活環境づくり、健康管理などにもご配慮をお願いいたします。

Ⅱ. 進路指導の予定と家庭での準備

前期（4月1日～10月6日）		
月	学校・学年行事等	進路関係
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・前期中間試験（6/3木・4金） ・第1回進路説明会（6/19土） 	<ul style="list-style-type: none"> ※<u>第1回進路希望調査</u> 6/18金 ※第1回復習確認テスト（6/24木） 復習確認テストの結果など利用して、自分の課題を見つけ、学習を工夫する。 ※都立の冊子「入学を希望する皆さんへ」配布予定
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行（7/14水～7/16金） ・授業終了（7/20火） ・夏季休業（7/21水～8/29日） ・三者面談（全学年）（7/21水～7/29木） 	<ul style="list-style-type: none"> ※<u>第2回進路希望調査</u> 7/12(月) ※第1回三者面談（夏休み中） ※進路の目標を定め、夏季休業中の計画を立てる。 ※実際に高校を見学して、どのようなことを学ぶかを知る。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始（8/30月） 	<ul style="list-style-type: none"> ※前期期末テストの勉強に集中する。 ※実際に高校を見学して、どのようなことを学ぶかを知る。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・前期期末テスト（9/9木・10金） ・学力向上を図る調査（全学年） （9/17金） 	<ul style="list-style-type: none"> ※上級学校の最新の募集要項を調べ、具体的に出願先を絞り込んでいく。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回進路説明会（10/2土） ・前期終業式（10/6水） ・秋季休業日（10/7木・8金） 	<ul style="list-style-type: none"> ※第3回進路希望調査（9/30木） ※第2回復習確認テスト（10/5火） ※高校の入試説明会等が多数開催される。

後期（10月12日～3月18日）		
	学校・学年行事等	進路関係
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・後期始業式（10/12月） ・体育祭（10/23土） 	<ul style="list-style-type: none"> ※第2回三者面談（10/28木～11/4木） ※後期中間テストの準備勉強に集中する。

11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談（3年のみ） （10/28木～11/4木） ・後期中間テスト （11/11木・12金） 	<ul style="list-style-type: none"> ※後期中間テストの準備勉強に集中する。 ※第4回進路希望調査(11/10水) ※「東京都立高等学校等募集案内」配布予定
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談（全校）(11/29月～12/3金) ・授業終了(12/24金) ・冬季休業(12/25土～1/7金) 	<ul style="list-style-type: none"> ※第3回三者面談(11/29月～12/3金) ※12月までの成績で調査書が作成される。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◆私立入試相談準備 ◆私立入試相談(12/15～17頃) ◆各自で入試要項準備 ◆調査書作成依頼 </div>
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始(1/11火) 	<ul style="list-style-type: none"> ※出願校の過去問題を研究し、対策を立てる。 私立推薦出願(1月15日以降) 私立推薦入試・発表(1月22日以降) 都立推薦出願(1月12日～1月17日) 都内私立一般出願(1月25日以降) 都立推薦入試(1月26日、27日)
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末テスト(2/24木・25金) 	<ul style="list-style-type: none"> 都立推薦発表・手続き(2月2日) 都立一次(分割前期)出願(1月31日～2月4日) 都立一次(分割前期)願書取り下げ(2月中旬) 都立一次(分割前期)願書再提出(2月中旬) 都内私立一般入試・発表(2/10木以降) 都立一次(分割前期)学力検査(2月21日)
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式予行(3/16水) ・第73回卒業式(3/18金) 	<ul style="list-style-type: none"> 都立一次(分割前期)発表(3月1日) 都立一次(分割前期)手続締切(3月上旬) 都立二次(分割後期)出願(3月4日) 都立二次(分割後期)願書取り下げ(3月上旬) 都立二次(分割後期)願書再提出(3月上旬) 都立二次(分割後期)学力検査(3月9日) 都立二次(分割後期)発表・手続(3月15日)

Ⅲ. 中学校を卒業してからの進路

中学校を卒業してからの進路としては、次のような場合が考えられます。

- ① 高等学校、高等専門学校へ進学する。
- ② 専修学校、各種学校や高等職業技術専門学校などへ進学する。
- ③ 就職する。
- ④ 働いたり別のことに組みんだりしながら、定時制や通信制の高校へ進学する。
- ⑤ 留学する。
- ⑥ 家事手伝いをする。

Ⅳ. 進学について

1. 高等学校

高等学校と一口に言っても、さまざまな種類の学校があります。その種類は主に

- ① 設置者による分類
- ② 課程や学年制・単位制による分類
- ③ 学習内容による分類

の3つに分類されます。それぞれの特徴をよく知り、進路選択に生かしてください。

(1) 設置者による分類

	都立高校	私立高校	国立高校
設置者	東京都	ある特定の個人または団体	国
受験制度	1校だけしか受験できない形で、都内全域で受験可能。(平成15年度入学者選抜より学区制度は廃止)推薦制度があり、推薦が不合格でも一般受験はできる。	全国どの学校でも受験でき、試験日が違えば複数校を受験できる。推薦制度もあるが、学校により推薦制度の内容や方法が違うので、要注意。推薦が不合格でも一般受験はできる。	通学区域や通学時間など制限しているところもある。学校数も、募集人数も少ない。
入学試験	入試得点と調査書をあわせた総合成績で選抜するが、その比重割合、入試科目等は学校による。また、傾斜配点、面接の有無、分割募集、男女枠なども学校によって違う。	ほとんどが国数英の3教科と面接だが、学校によって試験日・試験内容は違う。推薦は調査書重視。一般試験は、入試得点重視型から面接(人物)重視型までさまざまである。	学校によってさまざま。5教科がほとんどだが、3教科で実技試験を行うところもある。選抜は試験結果重視。
進路指導	ほとんどの学校で文系・理系など志望する大学の学部に合わせて授業を選択するようなカリキュラムを組んでいる。就職希望者には就職指導や相談も行われる。	進学・就職指導は特に熱心に行われ、補習、志望別、能力別等の様々な形で工夫されている。大学付属校には推薦・優先入学などの特典のあるところもある。	国立大の付属校ではあるが、大学を受験する際の特典は一切ない。入学者のレベルが高いため、進学実績は充実。
校則	生徒の自主性が重んじられ規律は比較的ゆるやかである。制服のない高校も多く、各自の自覚と責任が問われる。	9割以上の学校で制服を定めている。学校の教育方針に沿った校則を設け、生活面での指導を厳しく行う学校も多い。	都立高校と同様、生徒の自主性を重んじ、規律も本人の自覚に任せるところが多い。
部活動	生徒の自主的な活動による部活動で、同好会などを含めてさまざまな種類があり熱心に活動している。	学校の特色の1つとして力を入れており運動部でも文化部でも全国的に有名な部を持つ学校も多い。	付属の大学のクラブを取り入れた特色のあるクラブもある。

*学費 (都立は令和2年度全日制の場合、私立は令和2年度全日制の場合)

	都立高校	私立高校
入学金	5,650円	平均 251,637円
授業料等(年間)	118,800円	平均 466,708円
施設費	なし	平均 41,049円
その他	学校ごと(生徒会費、PTA会費等)	平均 174,645円
初年度納入金計	学校ごと	平均 934,038円
検定料	2,200円	平均 22,775円

(東京都のHP「令和2年度 都内私立高等学校(全日制)の学費の状況」参照)

※「東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」を参考にしてください。

(2) 課程や学年制・単位制による分類

〔課程による分類〕

① 全日制課程

中学校と同じように、朝登校して教科および教科外の活動を行います。修業年限は3年です。

② 定時制課程

午後5時頃から9時頃まで学習する夜間定時制のほか、午前部・午後部・夜間部の3部制もあります。また、時間的には全日制とほとんど変わらない昼間定時制というのもあります。修業年限は、4年を基本としますが、単位制をとっている学校では3年でも卒業が可能です。

③ 通信制課程

郵送によって配布される教材や放送を利用して、自宅で学習します。そして、定められた課題やレポートを提出することによって、単位を修得していく形をとります。また、年間に決められた日数は登校し、面接授業(スクーリング)を受けます。修業年限は3年以上となっています。

〔学年制・単位制による分類〕

① 学年制

学習する教科・科目が、学年ごとに定められていて、その学習成果が認められると単位が与えられ、進級する制度を学年制といいます。全日制は3年、定時制は4年を終了すると、卒業が認められます。大部分の高校が学年制をとっています。

② 単位制

1年生の授業を終えてから2年生に進級するという形をとらず、学年に関係なく、必要な勉強量(単位)を修得することに着目した制度です。多くの科目の中から一定の条件に従って自分に合った科目を選択し、それによって修得できる単位を積み重ね、一定の単位数に達した時点で卒業できるというものです。時間割も自分で考えて作ります。

《単位とは》

週に1時間(50分)の授業を1年間受けると1単位になります。例えば国語の授業が週3時間あるとすると、1年間で3単位ということになります。単位制では、どの教科から何単位以上、1年間では何単位以上、卒業するには何単位以上、などという条件に従い、3年間を見通して授業の組み合わせを考えます。

せっかく1年間授業を受けても試験の成績が悪ければ「単位を落とした」ということになり単位が取得できない場合もあります。単位という考え方は、すべての学校に共通ですから覚えておくと良いでしょう。

(3) 学習内容による分類（都立高校の場合）

①普通科	②普通科（コース制）	③普通科（単位制）	④農業に関する学科	⑤工業に関する学科	⑥科学技術科	⑦商業に関する学科	⑧ビジネスコミュニケーション科	⑨情報に関する学科	⑩産業科	⑪家庭に関する学科	⑫福祉に関する学科	⑬芸術に関する学科	⑭体育に関する学科	⑮国際に関する学科	⑯総合学科	⑰併合科
------	------------	-----------	-----------	-----------	--------	-----------	-----------------	-----------	------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-------	------

① 普通科

国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科を中心に学習します。各教科は、更にいくつかの科目に分かれています。学校が定めた教育内容に従い、定められた科目や自分で選択した科目を学習します。大学・短大・専門学校への進学や就職など、幅広い進路に対応します。

② 普通科（コース制）

普通科の一部ですが、皆さんの興味・関心や希望に応じられるよう、学習内容の重点化を図り、様々な選択科目を設けています。1年次から語学系、文科系、美術系、情報系のコースに分かれて学習します。深川高校（外国語コース）、田柄高校（外国文化コース）、片倉高校（造形美術コース）、松が谷高校、小平高校（外国語コース）、五日市高校（ことばと情報コース）があります。

③ 普通科（単位制）

一般的な普通科の高校（学年制）は学年ごとに履修する科目が決まっていますが、必修科目の普通科目を中心に、選択科目を豊富に設定している高校が多くなっています。進学や資格取得など、自分の希望する進路や興味・関心に応じて、カリキュラムや時間割を主体的に考えて学ぶことができるのが特徴です。

④ 農業に関する学科

農業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、農業生産物の栽培や飼育を通し、自然に親しみながら専門的な知識やバイオテクノロジーなどの技術を身に付けます。

⑤ 工業に関する学科（単位制も含む）

工業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指して、専門的な知識やものづくり技術・ハイテク技術などを身に付けます。

⑥ 科学技術科

科学や技術について幅広く学び、卒業後、理系の大学等において専門性を高めるための基礎力を身に付けます。科学技術高校及び多摩科学技術高校に設置しています。

⑦ 商業に関する学科

経理、情報処理などの商業の分野や国際化に対応する分野で活躍できる人材の育成を目指して、専門的な知識や技術を身に付けます。

⑧ ビジネスコミュニケーション科

激変する社会環境の中で、自立することのできる人材の育成を目指します。英語や実践的なビジネス科目を学び、社会科学系および人文科学系大学への進学を目指します。進学型専門高校として、大田桜台高校及び千早高校に設置しています。

⑨ 情報に関する学科

高度情報通信社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てるため、情報の各分野に関する知識と技術を習得します。新宿山吹高校に設置しています。

⑩ 産業科

生産・流通・消費の各過程の関連性を学び、起業家精神を育成します。従来の学科の枠を超えた

新たな学科として、橘高校及び八王子桑志高校に設置しています。

⑪ 家庭に関する学科（単位制も含む）

家庭生活に関する専門科目の学習を行うことにより、衣食住、保育、家庭看護や介護などの知識や技術を身に付けます。

⑫ 福祉に関する学科

各種福祉施設、病院、保育園などで実習や体験学習を行いながら人間尊重の精神をしっかりと身に付け、社会の援助者として行動できる人間を育成します。野津田高校に設置しています。

⑬ 芸術に関する学科

音楽、美術、舞台表現に関する専門科目の学習を行うことにより、感性と表現力を身に付け、将来にわたって芸術の発展に寄与する人材の育成を目指します。総合芸術高校に、「音楽科」、「美術家」及び「舞台表現科」を設置しています。

⑭ 体育に関する学科

体育・スポーツに関する専門科目の学習を行うことにより、保健体育に関する知識・技能を身に付けます。普通教科のほかに、バレーボール、バスケットボール、サッカー、体操、陸上、水泳、柔道、剣道の専攻に分かれた専門の学習を行います。駒場高校及び野津田高校に設置しています。

⑮ 国際に関する学科

国際関係、日本の伝統文化、異文化理解などに関する学習や、自分で設定した課題を深く学ぶ課題研究型の学習を行います。また、優れた外国語（英語など）の運用能力を身に付けることを目指します。こうした学習を通して、豊かな国際感覚を身に付け、積極的に国際社会で行動できる人間を育成します。

国際高校に、英語のほか、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語及び韓国・朝鮮語などを学ぶことができる「国際科」を設置しています。また、海外大学への進学を目指す「国際バカロレアコース」を平成28年度より新設しました。

大島海洋国際高校に、国際航海や観測航海といった実習を行う「海洋国際科」を設置しています。

⑯ 総合学科

普通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や進路希望に合った科目を選択し、系統的、専門的に学習します。自分の生き方や将来の進路を考える「産業社会と人間」という総合学科独自の科目を全員が学習し、科目選択に生かします。

全日制では、晴海総合高校、つばさ総合高校、世田谷総合高校、杉並総合高校、王子総合高校、葛飾総合高校、青海総合高校、町田総合高校、東久留米総合高校、若葉総合高校、定時制では、六本木高校、大江戸高校、世田谷泉高校、稔ヶ丘高校、桐ヶ丘高校、青海総合高校、東久留米総合高校に設置しています。

⑰ 併合科

二つの学科を一つの学級に編成している学校もあります。これを、併合科としています。全日制では、大島高校（農林・家政）、三宅高校（農業・家政）、八丈高校（園芸・家政）があります。定時制では、瑞穂農芸高校（普通・農業）があります。

(4) 多様なタイプの都立高校

※ 詳しくは、6月配付する予定の東京都教育委員会発行の冊子「令和4年度 東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」をごらんください。

① 進学指導重点校・進学指導特別推進校・進学指導推進校・進学指導研究校

東京都教育委員会が指定した進学を重視した学校で、さまざまな支援策が講じられています。

- ・進学指導重点校 : 日比谷・戸山・青山・西・八王子東・立川・国立
- ・進学指導特別推進校 : 小山台、駒場、新宿、町田、国分寺、国際、小松川
- ・進学指導推進校 : 三田、豊多摩、竹早、北園、墨田川、城東、武蔵野北、小金井北、江北、江戸川、調布北、日野台、多摩科学技術
- ・進学指導研究校 : 葛飾野、本所、田園調布、小川、東大和南、芦花、豊島、羽村、東杉並、文京、府中東、足立、大崎、調布南、紅葉川、狛江、大山、清瀬、広尾、石神井、保谷

② 進学を重視する単位制高校

従来からの伝統を受け継ぎ、少人数指導、習熟度別授業など進学を重視した教育課程を編成し、補習・補講や大学との連携など多様な学習・進路指導を行います。墨田川高校、国分寺高校、新宿高校の3校があります。

③ 多様な学習型の単位制高校

特色ある多くの選択科目があり、時間割はガイダンスを受けて自分でつくります。飛鳥・芦花・上水・美原・大泉桜・翔陽・板橋有徳・忍岡高校があります。

④ 科学技術に関する高校

机上の学習だけではなく豊富な実験や研究を通じて科学技術を学びながら、理系大学などへの進学を目指す進学型の専門学科。科学技術高校と多摩科学技術高校があります。

⑤ 専門型の単位制高校

例えば、デザイン工学科に入学しても、自動車に興味・関心がわいたら、自動車製作や自動車整備の履修パターンを選択するというように、学科の枠を超えた選択ができます。また、新しい取り組みとして、学校と企業が一緒になって、10日から数ヶ月間、いろいろな企業内で働く体験や訓練をしながら学ぶシステム（デュアルシステム科）は、六郷工科高校にあります。

⑥ 定時制型の単位制高校

例えば、新宿山吹高校では、単位制・無学年制の昼夜間の定時制課程（普通科、情報科）と通信制課程（普通科）を併設し、更に、社会人を対象にした生涯学習講座を開講しています。生徒は一人一人の生活スタイルや学習ペースに合わせて学習しています。

他にも昼夜間の単位制定時制高校には一橋高校、砂川高校、浅草高校、八王子拓真高校、荻窪高校、飛鳥高校、六郷工科高校、板橋有徳高校があります。

⑦ 総合学科高校

普通科と専門学科の良さを生かして、普通科目からさまざまな専門科目まで幅広い選択科目を設置し、入学後に生徒が自分の興味関心や適性、能力、進路希望などに応じて主体的に学習内容を選択し、系統的・専門的に学習します。1年生では、2・3年生で学ぶ選択教科を決めるため、「産業社会と人間」という科目を全員が学習します。

全日制課程では、つばさ総合・晴海総合・杉並総合・若葉総合・世田谷総合・王子総合・葛飾総合・町田総合・東久留米総合・青梅総合、定時制課程（三部制・単位制）では、世田谷泉・六本木・稔ヶ丘・桐ヶ丘・大江戸・東久留米総合・青梅総合高校があります。

⑧ チャレンジスクール

いわゆるチャレンジスクールは、正式には「定時制単位制総合学科高校」といいます。その名の通りの課程をもった昼間定時制の高校として設置され、主に次のような生徒を対象としています。

- ア 勤労者
- イ 定時制を希望するが昼間に学びたい生徒
- ウ 自分のペースに合わせて学びたい生徒
- エ 自分の興味・関心に重点をおいて学びたい生徒
- オ 他の高校を中退した生徒

桐ヶ丘・世田谷泉・大江戸・六本木・稔ヶ丘の5校があります。

⑨ エンカレッジスクール

エンカレッジ (encourage) とは、「励ます」「力づける」を意味し、小・中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校です。2人の担任、30分授業や少人数授業などできめ細かな指導をします。学力検査によらない入試を行い、試験より努力を評価します。蒲田・足立東・東村山・秋留台・練馬工業高校などがあります。

⑩ その他

その他、重点支援校、中高一貫教育校、新たなタイプの昼夜間定時制高校、産業高校などが設置されています。

(5) 私立高校の種類

私立高校も基本的には都立高校と同様の課程(全日制・定時制・通信制課程)学科(普通科・専門学科)に分かれています。都立高校にはないユニークな学科やコースもあります。私立には、設置者や建学の精神によっていろいろなタイプがあります。大きく分けると次のようになります。

ア 男女の別による分類

- ① 男女共学校・・・ 公立中学校や都立高校と同様に、男女が一緒に学びます。
- ② 男女別学校・・・ 同一の学校の敷地内で校舎や教室が男女で分かれ、学習は別学ですが、部活や行事は一緒のところもあります。
- ③ 男子校・・・ 男子だけの学校です。
- ④ 女子校・・・ 女子だけの学校です。

〔私立高校の共学化〕

ここ数年、男子校・女子校から共学に移行する私立高校が増えています。近年の生徒・保護者の進学希望で、共学指向が強まっているためです。私立高校としては生徒・保護者の要求に応えることで入学者を確保したいということですが、両者の希望が一致して、共学に移行した私立高校のほとんどでは志願者が大幅に増えています。

共学化によって志願者が増えるということはそれだけ倍率が上がって入試が難しくなるということでもあります。さらには、共学・別学・男子校・女子校のそれぞれのメリット、デメリットをよく考えること、生徒の適性や希望、施設設備面や環境なども考慮する必要があります。

私立高校については、昔のイメージや先入観は禁物です。最新の資料に基づき、また実際の見学等を含めて検討するように心がけてください。

イ 大学付属校のいろいろ

大学付属校には、教育学部が教員養成の教育や研究を目的として設置しているところ（国公立に多いタイプで、大学進学での特典はありません。）と、建学の精神に基づいた一貫教育を目指して設置しているところ（私立はこちらのタイプが多く、大学進学では、推薦・優先入学などの特典や学内選抜試験があるところもあります。）に分けられます。後者のタイプの中には、進学校として他大学への進学を奨励しているところや、大部分が上の大学に進学するところもあります。

ウ 宗教に関係のある学校

国公立の学校にはありませんが、私立の場合、宗教に基づく建学の精神によって、宗教に関する授業や行事を取り入れているところもあります。また、設立者が宗教に関係のある個人や団体であっても、教育内容はまったく別のところもあります。

2. 高等専門学校（高専）

主に工業関係の学科で、深く専門教育を行ってレベルの高い技術者の育成を目指しています。修業年限が5年となっているので、卒業後は大学3年に編入することもできます。

国立・私立・都立があり、都立の場合は受験日が一般の都立高校よりも早いので両方に願書を出すことができますが、都立高専に合格した場合はその後の都立高校の受験はできなくなります。

都内の国立では、東京工業高等専門学校、都立では、都立産業技術高等専門学校（都立高専と都立航空高専が統合）、私立では、サレジオ工業高等専門学校があります。

3. 専修学校・各種学校

理容、調理など実際的な知識や技能の修得を目的とします。修業年限は専修学校で1～3年、各種学校では半年くらいのところもあります。

卒業してすぐに仕事について、実際に役立つ技術を身につけるため、施設設備は充実したところも多いですが、それだけに学費もかかります。

また、専修学校には中学卒業者を対象とした高等課程と、高校卒業者を対象とした専門課程がありますが、専修学校によっては高等課程をおいていないところもありますので注意してください。また、修業年限が3年の高等課程では、通信制高校と提携して高校卒業の資格が取れたり、大学受験資格が与えられたりするところもあります。

4. 高等職業技術専門校

就職するために技術を身につけたいという人のために、東京都が運営している施設です。さまざまな事情のある場合や身体の不自由な人なども受け入れており、期間は1～2年です。学科には機械、溶接、木工、プラスチック加工、電気工事などがあり、授業料や実習教材費等は無料です。卒業後の就職には、職業安定所（ハローワーク）と連携して相談にのってくれます。

5. 企業が経営する学校（企業内高校）

日野工業高等学園のように、企業が経営する学校として中学卒業者を対象に、その企業に関する専門知識・技能を学ばせ、卒業すると社員として採用されるところもあります。

V. 就職について

義務教育を終えようとする今、中学を卒業したらすぐに就職するという進路選択もあります。誰でも将来的には、何らかの職業に就き、自分や家庭の生活を営んでいくようになります。

早く社会に出て仕事をするということは、とても意味のあることですが、就職にはそれなりの厳しさがあるということもしっかり自覚して、考えていきましょう。

① 自分の個性を発揮し、生きがいをもてる仕事を見付ける。

仕事を選ぶときには、初任給がよいとか、体裁がよいなどの目先のことにとらわれず、自分に合っているか、やりがいがあるか、一生打ち込んで悔いのない仕事であるかどうかを考えましょう。

② 技術や技能が身に付く仕事を選ぶ。

その仕事を続け、自分自身が成長したり、将来仕事の幅を広げていったりするためには、技術や技能が身につく、資格が取れるかどうかということも大切です。長い目で見て考えましょう。

③ 働きながら学ぶ。

仕事をしながら定時制や通信制で勉強し、高校卒業の資格を取ることできます。一日勤務が終わって、その後また学校へ行くのは大変なことです。しかし、将来のことや自分の成長を考えると、高校卒業の資格を取っておくかどうかは、とても大切な問題です。

中学校には、職業安定所（ハローワーク）からたくさんの資料が送られてきます。希望がかたまったら、家族や担任の先生に相談しましょう。縁故就職（会社の経営者が6親等以内の血族ないし3親等以内の姻族の場合をいう）や知り合いによる就職をする人もいますが、労働条件がはっきりしていなかったり、条件が悪くても義理で我慢させられたり、口先だけの約束で雇用関係や身分保障があいまいにされたりすることが多いので、ハローワークを通しておいたほうがいいでしょう。

就職選考は、1月上旬から始まります。ハローワークとの連絡、職場の見学などについては中学校で連絡をとりますので、早めに申し出てください。

VI. 入学選抜について

1. 都立高校・都立高等専門学校

- * 1 単独選抜という形で、希望する学校1校を受検します。
- * 2 以前は、全日制課程普通科を受検する際に、学区制度がありましたが、平成15年度入学者選抜からは学区制度がなくなりました。
- * 3 平成15年度入学者選抜から調査書の各教科の評定は絶対評価になりました。
- * 4 推薦入試では「自己PRカード」を志願校へ出願時に提出しますが、一般入試では志望する高校の検査内容に面接がある場合のみ、提出します。面接がない場合には、合格決定後、各高校が定める書類提出日に他の書類と共に提出します。
- * 5 都立高校では「学力検査」を受ける、という意味で「受験」という言葉を使わずに、「受検」という言葉を用いています。

(1) 推薦に基づく選抜

出願日：令和4年1月12日～1月17日

検査日：令和4年1月26日、27日

発表：令和4年2月2日

- * 1 都立高校の推薦の選考は、中学校長から提出された推薦書と調査書、生徒本人が書く「自己PRカード」、推薦入学願書、それに検査日当日の面接の結果などに基づいて各学校が総合的に行います。また、実技検査や作文が行われるところもあります。例年、大変な高倍率となっており、狭き門です。
- * 2 推薦入学で合格したら必ずその学校に入学することになり、私立を含めて他の高校は受検できません。不合格になった場合には、一般入試で同じ都立高校または別の高校を受検することができます。

(2) 学力検査に基づく選抜 (第1次募集・分割前期募集)

出願日：令和4年1月31日～2月4日

検査日：令和4年2月21日

発表：令和4年3月1日

- * 1 都立高等専門学校（高専）の選抜日程は、別途指定されます。
- * 2 出願後1回に限り、「取り下げ」と「再提出」により志願変更ができます。
- * 3 調査書と当日の学力検査の合計点(実技検査や面接のあるところはそれも含む)によって合否が決まります。
- * 4 検査科目は全日制では原則、一次・分割前期入試科目は5教科で、学力検査と調査書の比率も7：3に統一されました。また、二次・分割後期入試科目は3教科で、学力検査と調査書の比率も6：4に統一されました。詳しくは各自で資料をよく見てください。
また、英語ではリスニングテストが行われています。
- * 5 試験問題は都立はすべて共通（高専は独自）ですが、5教科のうち国数英の3教科について独自の問題（グループ作成問題）を実施する高校もあります。
進学指導重点校グループ…日比谷、西、戸山、八王子東、青山、立川、国立
進学重視型単位制高校グループ…新宿、国分寺、墨田川
※国際高校については、英語の学力検査問題のみ独自で実施します。
※併設型中高一貫校…令和3年度入試から5教科都立共通問題を実施
両国、大泉（令和4年度より高校からの募集停止）
富士、武蔵（令和3年度より高校からの募集停止）
- * 6 平成27年度入試より、マークシート方式の導入が始まりました。

(3) 第2次募集・分割後期募集

出願日：令和4年3月4日

検査日：令和4年3月9日

発表：令和4年3月15日

- * 1 募集人員に達しない高校は第2次募集を行います。また、あらかじめ募集定員を前期と後期に分割して募集する学校は第2次募集と同時期に後期の募集を行います。
第1次募集と同様、1回に限り、志願の変更ができます。試験科目は、国語、数学、英語の3教科になります。同じ高校でも第1次募集とは学力検査と調査書の比率が違ったり、面接を行ったりするところもあります。

2. 私立高校

全国どこの高校でも受験できます。また、推薦入試は1校しか受験できませんが、一般入試は入試日が違えば複数の高校を受験することもできます。私立高校は学校によってその教育内容がさまざまなので、入学選抜の方法にも高校ごとに特徴があります。希望する高校の選抜方法をよく調べておく必要があるでしょう。

また、私立高校の入試日程は都立高校より早いので、私立と都立を両方受験する人のために、入学手続き・入学金の納入などを都立の合格発表日まで待ってくれる（延納といいます）ところもあります。

(1) 推薦入試

私立高校の推薦入試は、都立高校とは大きく違います。私立高校の場合、推薦入試を受験するには事前に中学校から申し込みをして、入試相談をしなければなりません（入試相談は、中学の先生が高校に書類を提出しに行くという形で行われます）。私立高校はその入試相談の際に、本人の合格の可能性を示し、可能性がないと判断された場合は、推薦入試は受験できません（一般入試は自由に受験できます）。

〔推薦入試の流れ〕

推薦入試の希望をはっきりさせる。



担任との相談（成績、出欠席等の基準があります）
学校長の推薦



私立高校と中学校との入試相談 12月15日～
高校側から合格の可能性が述べられる



出願 (1月15日以降)



推薦入試 (1月22日以降) *日程は学校により異なります。

*1 推薦入試の試験では学力試験は行わず、中学校長の推薦書と調査書、面接、作文、その他実技などによって選考されます。募集人員は全体の50%を上限としています。ただし、最近は学力試験を行い不合格になることの多い「推薦」もあるので、注意が必要です。推薦入試で不合格になっても一般入試で再び受験することができます。

*2 都立の推薦と同様、推薦入試に合格したら必ずその高校に入学することになり、他の高校は受験できません。

(2) 一般入試

出願日： 令和4年1月25日以降

入試日： 令和4年2月10日以降（*日程は学校により異なります。）

受験科目： 国・数・英の3教科のところが多いですが、社・理・作文等、自分で受験教科を選択したりするところもあります。

面接： ほとんどの学校で実施され、かなり重視されます。本人のみ、本人と保護者、数人のグループなど形式はさまざまです。

3. 国立高校

- * 1 国立高校は、都立高校などとは受験方法が多少違います。全般的に募集が早いので注意してください。
- * 2 選抜方法は、調査書、学力検査、面接試験などです。

筑波大附属・東京学芸大附属・筑波大附属坂戸・東京芸大附属音楽・東京工大附属科学技術・筑波大附属駒場（男子校）・お茶の水女子大附属（女子校）などがあります。

4. 高等専修学校（高等課程を含む）

選考方法は学校によって異なります。国語や数学、英語などの学科試験を行うところもあれば、書類審査や面接だけのところもあります。

出願は11月ごろから始まります。募集を数度にわたって行う学校もありますが、早い方が合格しやすいようです。また、高等学校と両方受験することを認める学校もあります。

Ⅶ. 推薦について

都立高校においても私立高校においても、推薦については誰もが自由に受けられるというわけではなく、上原中学校としての推薦基準と高校側の基準の両方を満たしていなければなりません。学力のほかにも係・委員会活動、部活動、そして日常の授業態度や生活態度などが推薦の条件となりますので、日頃からきちんとした学校生活を送る必要があります。

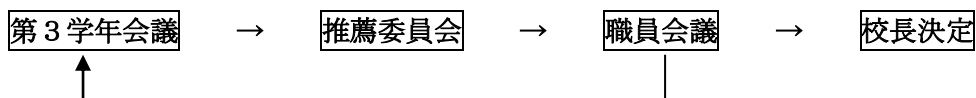
推薦制度は、中学校が責任をもってその生徒を推薦するというものですから、受験の時はもちろん、高校入学後も、上原中の推薦を受けて入学した生徒としての責任が生じます。推薦で受験する場合は条件を確認する書類をやりとりし、違反した場合は不合格、入学後の場合は退学をも含めた罰則となります。

以上のように、推薦制度というものは思った以上に責任の重いものです。軽く考えることなく、熟慮した上で決めてください。

1. 推薦決定まで

上記の推薦基準を基にして

- (1) 推薦希望者について、第3学年会議で検討し、意見をまとめます。
- (2) その結果を推薦委員会に提出し、推薦委員会で検討します。
- (3) 推薦委員会での検討結果を基に職員会議で意見を出し合い、校長が最終決定をします。
- (4) 推薦委員会または職員会議で「再検討」となった場合は、一度第3学年会議に差し戻し、再び同じ流れを通して校長が最終決定をします。



- (5) 検討の結果、推薦を希望しているが配慮・指導が必要と判断された生徒については、生徒本人または必要に応じて保護者と面談を行うことがあります（校長面談を含む）。
- (6) 推薦を希望する生徒の保護者には、「推薦願」書を提出していただきます。なお、「推薦願」は都立推薦、私立推薦のそれぞれについて（学校ごとに）提出していただきます。
- (7) 一度推薦を決定しても、その後の生徒の状況によっては推薦を取り消す場合があります。また、それが合格後の場合は進路先上級学校にも連絡し、対応を検討します。

2. 推薦基準(上原中学校としての基準)

1. 触法行為がないこと
2. その学校を選んだ目的と強い進学の実意があり、合格したら必ず入学すること
3. 希望する上級学校が提示する推薦基準を満たしていること
4. 基本的な生活習慣が身につけていること
5. 中学校の普通の授業を大切にし、意欲的に学習に取り組んでいること
6. 中学校生活の規則と集団生活のルールを守り、まじめに学校生活を送っていること
7. 注意を受けたことをすぐに改善し、改善した状態で学校生活をおくることができること
8. 合格発表後、高校入学後も、推薦受験者としての誇りをもってしっかりと生活できること

Ⅷ. 奨学金制度について

人物・学業に優れ、上級学校で勉強する能力も熱意もありながら、経済的に勉強を続けることが困難な人のために、学費を援助する制度です。貸与を受けた奨学金は、卒業後無利子で定められた期間に、年賦で返還することになっています。貸与の出願は、すべて学校を通じて行われます。中学在学中に採用候補者として予約することができますので、希望者は申し出てください。

奨学金を貸与してくれる団体にはさまざまな種類があり、団体によって貸与の金額、貸与の条件などが違います。代表的なものには日本育英会、あしなが育英会、交通遺児育英会、渋谷区奨学資金などがあります。詳細については要項が到着次第、ご連絡いたします。

また、私立高校の中には、特待生・特別奨学金制度などを設けて、入学金や授業料を免除してくれるところもあります。

渋谷区の奨学制度 (問い合わせ：教育委員会学務課学事係)

経済的理由により高校などへの進学や就学が困難な人に、奨学資金をお貸しします。

募集時期は毎年10月頃です。

対象

- 奨学資金を借りなければ就学が困難な人
- 区内に6か月以上居住し、保護者と同居している20歳未満の人
- 高等学校、高等専門学校または、職業教育を目的とする高等課程の専修学校、各種学校に入学を希望または在学している人
- 国またはほかの団体から同種の資金の貸付を受ける予定のない人
- 世帯全体の所得合計が、一定金額以下の人

貸付金額(限度額) 昨年度実績

- 毎月の学資金 国公立 15,000 円、私立 28,000 円、専修・各種学校 15,000 円
- 入学資金 国公立 76,000 円、私立 220,000 円、専修・各種学校 76,000 円
- 進級資金(進級のつど) 8,000 円

その他の奨学制度など

東京都の育英資金

問い合わせ：東京都生活文化局私学部私学振興課

制度については、東京都生活文化局

<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/shigaku/ikuei/>

私立高等学校等の学費負担軽減

公益財団法人東京都私学財団

返還不要な助成金制度や貸付制度、東京都育英資金制度などがあります。詳しくは

<http://www.shigaku-tokyo.or.jp>

を見てください。

過去5年間の高校別進学者数(卒業年度) 渋谷区立上原中学校 学習進路部

都立高校 全日制普通科					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
青山	2		1		
板橋				1	
大森			1		
蒲田					1
狛江		1	2		1
駒場	1	1		2	3
小山台			1		
鷺宮	1	1		1	1
桜町	1			1	1
新宿			1	1	
神代			1	1	1
杉並	7	3	2	2	3
竹早		1	1		
千歳丘	3		3	4	
千早		1			
戸山	1	2	3	1	1
豊多摩	3	1		1	
西	1			2	1
日野	1				
日比谷		4		1	
広尾	3	1	1	2	
深沢	1		1		
富士	2		2		
府中東	1				
文京		1			
松原	1	1	1	1	
三田					1
向丘				1	
武蔵			1		
武蔵丘			1		1
目黒				2	
雪谷	1	1			
両国				1	1
芦花		2	1		
特別支援学校	4	2	2	2	1

都立高校 全日制総合学科など					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
王子総合					
杉並総合	5	2	2		1
世田谷総合	1	1	1	2	
晴海総合	1				

都立高校 全日制専門学科					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
大田桜台			1		
科学技術			1		1
<small>産業技術高等専門学校</small>					1
杉並工業					
総合工科	1		1		1
総合芸術	1		1	2	2
中野工業		1	1	2	
練馬工業	2			1	
六郷工科					
工芸	1				1
国際		1			1
第一商業		4		1	1

都立高校 定時制					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
園芸					
大江戸		1			
荻窪		1		2	
工芸	1				
新宿山吹		1			
世田谷泉		2			
六本木				1	1

私立高校 共学校					
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
青山学院	1				1
郁文館グローバル	1	1			
岩倉				1	
関東国際	3	4	1	2	2
関東第一		1		2	
錦城学園	1				
国立音大	1				
熊本学園大学附属		1			
慶応義塾志木					1
京華			1		
京華商業	1				
京華女子					1
國學院	2	1		1	
国際基督教大学	2				1
国士館		3	2		1
国士館定時制					2
駒澤大学			1		
駒沢学園女子					1
駒場学園	2		1		
渋谷教育学園幕張				1	
実践学園	1			1	1
自由の森学園		1		1	
淑徳SC高等部					1
淑徳巣鴨			3		
松蔭	2	1			1
常総学院		1			
自由ヶ丘学園					1
城北					1
杉並学院			3	2	
成城学園		1	1	1	
正則		1			
青稜		1			
専修大附属			1	2	
大成	1	1			
大東学園	2		1	2	
大東文化第一	1				
玉川学園		1			
多摩大目黒		1			1
中央大学杉並			1	1	1
中央大学附属			1		
帝京		1			
桐蔭	1				
東海大付属浦安	1			1	
東海大付属高輪台	2				
東京農大一			3	1	
東京立正	1	1			
東京学館浦安					1
桐光学園			1		
二松学舎大学	1	2			
日本体育大学荏原				1	
日大櫻丘		4	1	2	2
日大鶴ヶ丘			1		
日大二高					1
日工大駒場	1	5	2		
八戸光星学院				1	
広尾学園小石川					1
広尾学園	1			1	
堀越	5				
豊南					1
明星学園		2			
明治学院	1	3	1		1
目黒学院	1		3	2	
目黒日大			2		
目白研心		1			
立命館慶祥	1				
立正大立正					1

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
公立合計	46	37	36	39	27
私立合計	59	61	44	45	38
進学合計	105	98	80	84	65
公立進学率	43.80%	37.80%	45.00%	46.40%	41.54%
私立進学率	56.20%	62.20%	55.00%	53.60%	58.46%

私立高校 男子校					
	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年
和光	1			1	
早稲田佐賀		1			
早稲田実業	1				
明法					
科学技術学園			1		
慶応義塾	1	2			
佼成学園	1	1			1
サレジオ工業高等専門学校				1	
自由ヶ丘学園	2			3	
保善		1		2	
日大豊山					
日本学園		1			
本郷	1			1	
立教新座					
早稲田高等学校	1		2		1
横浜					1

私立高校 女子校					
	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年
小野学園	1				
蒲田女子					
神田女学園		1	1	1	
慶應女子		1			
京華女子	2				
麹町学園女子			1		
佼成学園女子	1	1		1	1
品川エトワール		1			
下北沢成徳	1		1		
十文字					
淑徳SC			1	1	
鶴川		1			
トキワ松学園				1	
豊島岡女子	2		1		
桐朋女子					1
日女体大二階堂		1			
日本女子大附属		1			
藤村女子		1	1		
武蔵野女子学院		1			
村田女子	1			1	

その他の私立高校等					
	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年
KTC中央学院					
代々木高等学校	1				
あずさ第一	1	1			1
鹿島学園					1
さくら国際高等学校				1	
プリティンススクール	1				
東海大望星				2	
東京文理学院				1	
飛鳥未来	1				
大原学園	1			1	
第一高等学院		1			
角田ワング学園N高校			1		1
花咲学園明聖高校			1		
星槎国際		1			
レコールバンタン高等部				1	
東放学園					1
ルネサンス					1
海外の上級学校	1	2	1		3